

二松学舎大学公開講座

中世文学の中の江戸城

講師：五月女 肇志 教授（二松学舎大学文学部）

公開期間

2025 12 / 10 (水) 10:00 ~ 2026 2 / 10 (火) 16:00

※オンデマンド講座

区の名称の由来ともなった「千代田城」という別名を持っている江戸城は、徳川將軍家の居城として260年以上も続いたことは言うまでもありません。しかし、今から約560年前に築城された時の最初の城主は、太田道灌という室町時代の武将です。15世紀に活躍し、主君から暗殺されるという悲運の最期を迎えたことで知られる人物ですが、一方で当時を代表する連歌師や漢詩人との交流を活発に行い、文学作品にも度々登場しています。本講座では、江戸城を描いた作品、江戸城が舞台となった作品の中から、万里集九という人物が著した『梅花无尽蔵』という漢詩集、文明6年（1474年）に太田道灌が主催し、当時の代表的な歌人・連歌師である心敬に判者を依頼した『武州江戸歌合』を取り上げて、両作品の魅力と、当時の江戸城がどのように描かれているかを解説します。御聴講の後は、現在皇居東御苑として公開されている江戸城跡を改めて歩いた時に、これまで徳川時代を前提として考えていた風景とは異なる姿が見えて来るでしょう。

講師紹介

博士（文学・東京大学）。専門は日本中世文学・古典和歌文学。新古今時代を代表する歌人の一人・藤原定家を中心に研究を進めている。著書に『藤原定家論』（笠間書院、2011年2月）、『和歌文学大系 36 新古今和歌集』（共著、明治書院、2025年7月）等。和歌文学会例会委員長、西行学会代表、中世文学会委員代表等を歴任。ゼミナールでは、古典文学を扱った映像作品、フィールドワークの方法なども駆使して『百人一首』を解説している。

お申し込みはこちら



受講のご案内

対象：千代田区在住・在勤・在学者及び、
テーマに関心がある方

参加費： 無料

申込方法：申込フォームからお申し込みください。
QRコードまたは次のURLからお申し込み
いただけます。

<https://forms.gle/ULNGFrgLnsdNKKdj6>

申込期間：～2月6日（金）13:00まで

受講方法：お申し込み後、自動送信される受付
メール記載のURLからご受講下さい。
公開期間中は何度でもご視聴いただけます。

〔主催・お問い合わせ先〕

二松学舎大学

大学改革推進部
地域・産学連携室

★メールでお問い合わせください。

e-mail：s-renkei@nishogakusha-u.ac.jp